

「前より思いどおりに書けるので楽しい。スラスラと半紙に筆を滑らせる末藤良太さん(市場・高2)。転入を機に小から書道を始めました。4月には墨美書道展の中国駐大使館賞を受賞し、全九州新春書道展でも入選する腕前。「人が見た瞬間に何かを感じさせるような字を書きたい」と東眞須美先生の指導を受けながら、空間や字の存在感を出すよう心がけています。「自分にとって書は特技でもあり生きがいです」。集中して書き終えた後に、笑顔を見せました。



▲東先生の指導を受ける末藤さん、日頃から素直な視点で感動する心を大切にしています。

「思うようにはいきませんが、土に向かっている、時間が瞬く間に過ぎてしまっています」。金田文化祭で陶芸作品に心打たれたのがきっかけで、昨年から金田高齢者大学の陶芸教室に足を運ぶ井上綾子さん(弁城)。それまで見る側の立場だった金田文化祭に昨年初出品しました。「恥ずかしさもありましたが、反響はうれしかったです」と振り返る井上さん。「作陶は難しい分だけ達成感もあります。今は陶芸が新たな生きがい」と、さらに意欲的な2年目を迎えています。

伝統的作法を知ろうと社会人で茶道を始めた久原佳子さん(市場)。経験を重ねるにつれ視野が広がり、自分を見直すことになったと言います。茶名拝受を目標に練習を重ね、今は当初の楽しさよりも、日本文化が凝縮された茶道の奥深さを痛感しているそうです。「知ることで楽しさも増えました。日常生活で茶道に通じる場面に触れるとうれしいです」と久原さん。楽しいお茶から知りたなお茶へ、そして今は感じるお茶として学びつつ、感性を磨いています。



▲萬千家辻村社中に通う久原さん、辻村榮子先生から作法と思いやりの心を学んでいます。

「草木に水をあげるとスツクします。花も喜んでいるような感じがして、とてもすがい입니다」。2年前から方城高齢者大学の園芸教室に通う白石ナチヨさん(伊方)。教室では植物の特性や栽培の技法を知ることができ、自宅の庭の彩りも、畑で栽培する季節野菜の種類もいっそう増えました。「一問も野菜も同じです。接しただけの愛情と時間に応えてくれます」と笑顔を見せた白石さん。植物の命をはぐくみながら、自らの生きがいづくりにもつなげています。

油絵歴15年の笠淳一さん(弁城)。北九州市美術展の市議会議長賞をはじめ、田川美術展で3回の最高賞受賞など、多数の実績を誇ります。定年後は絵画一筋で、北九州市の加保保先生や直方市の阿部平臣先生など、偉大な師にも巡り会いました。「年齢も忘れて没頭しています。コレがあるから元気が保てる。本来の自分を取り戻したような感じですよ」と笠さん。教えて欲しいという声も聞かれますが「まだまだ自分を磨きたい」と制作に没頭する日々を楽しんでいます。



▲昨年アジサイの葉をモチーフに作った組血は、作陶1年目とは思えない見事な出来映え。

3月末に生まれた莉音ちゃん(2歳)の赤ちゃんを連れ、6月初回の練習に出席後初参加した木戸敬子さん(金田)。結婚後機に熊本市から転入したため、近くに友人がいない環境に、少し心細い毎日を送っていました。そんな中、養母の勧めで昨年9月からコルカナダに参加。「学生時代は合唱部でした。みんなで心を合わせて歌う機会がうれしいです。声を出すとスツキリにもハリが出ます」と木戸さん。晴れやかな表情で歌声を響かせていました。

園芸 白石ナチヨさん  
Natchio Shimizu



▲中古門老人会でみなさんと植えた色とりどりの花々、白石さんの心を和ませる風景です。

大塚玲子先生の熱心な指導によるコルカナダ、20人が美しいハーモニーを醸し出します。



書道 末藤良太さん  
Ryota Mutoh



茶道 久原佳子さん  
Yoshiko Kohara



陶芸 井上綾子さん  
Ayako Inoue



園芸 白石ナチヨさん  
Natchio Shimizu

私の生きがいトーク2

今もこれからも輝く熱中時代 ■趣味で華やぐマイライフ■

出会い

# 私の人生を彩る一芸

たくさんの芸術や学びの機会がある中で、偶然とも必然とも感じられる一芸への出会いが、ときにその人の人生を変えていきます。興味のあることに思い切って飛び込めば、日常に彩りが加わる... はじめたばかりの人、面白みが増している人、壁に向き合う人、極めようとする人。いま熱中する姿で輝く、7人のかたにお話を聞きました。



▲砂浜やオアシスなど人体で大自然を表現する杉永さん。目標はピカソの絵のような写真。

写真歴は30年、各展覧会で入選を重ねる杉永博人さん(釜田)。独自の作風である抽象的なヌードは、杉永さんが表現の限界を感じたときにたどり着いたスタイルでした。「やみくもに撮ってはいけません。主張がなければならぬ。ただし自分の路線は変えるな」と指摘され、悩み抜いたあげくこの表現が浮かびました。画家のマチス作品にも影響され「創撮」をテーマに、人の内面的な美しさをとらえる写真家を目指して、撮影を続けています。



写真 杉永博人さん  
Hiroyuki Sugiyama



▲奈良県に足を運んで描いた笠さんの最新作「金剛力士阿形」。現在、一對の吽形を制作中。

絵画 笠淳一さん  
Junichi Kasai



「創撮」をテーマに、内面的な美を写したい。



▲大塚玲子先生の熱心な指導によるコルカナダ、20人が美しいハーモニーを醸し出します。

合唱 木戸敬子さん  
Kaiko Kido



歌声と心を合わせて気持ちをリセット。